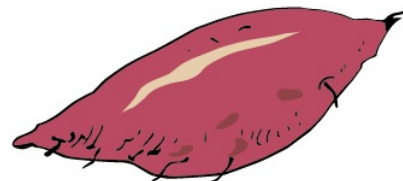


あま〜いサツマイモをつくりたい

栽培のポイント

- サツマイモのイモの部分は根が肥大したもの！
サツマイモは根の量を増やすことで増収ができます。
そのためには、生育初期からリン酸を効かせて、地下部の根の発達を促し、肥大するための土台づくりが大切です。



- ツルボケは光の奪い合いで発生！
葉づくりに走るとツルボケ（過繁茂状態）になり、光合成能力が低下して根の発達やイモの肥大を妨げます。
ツルボケは、元肥のチッ素成分過剰や曇雨天で助長されます。



- サツマイモの中身はデンプンが主体！
チッ素で肥大させるとイモの中心部に未消化のチッ素が残り、腐りやすくなり、甘みがないイモになります。また、加工においても不都合が増えますので、リン酸を効かせてチッ素の消化を促し、品質向上と同時にイモの腐敗の予防をしましょう。

小ぶりで舟形の葉をつくる

サツマイモの施肥提案（1 a = 30 坪）

肥料名	元肥	追肥① 定植 30 日後	追肥② 収穫 10～20 日前頃
MリンPK	4 ～ 6 kg	3 kg	3 kg
バクヤーゼK	30 kg		
NK化成	2 kg		

追肥と一緒に除草、
土寄せをしましょう

【品質を上げる生育調整】

定植時	Pフォスタ 1000 倍液の葉面散布 定植時の苗の乾燥・しおれ予防、活着促進、ツルボケ予防
干ばつ傾向の時	リーフアップN 500 倍液の葉面散布 チッ素およびミネラルを補給し、生育を応援(防除との併用可)
曇天傾向の時	Pフォスタ 500 倍液の葉面散布 ツルボケ予防、イモの肥大促進、耐病性強化、 イモの貯蔵性向上(防除との併用可)
降雨量が多い時	MリンPK 4kg をウネ間に施肥 ツルボケ予防、イモの肥大促進、耐病性強化、イモの貯蔵性向上

